



不知火っ子だより

第5号

平成29年5月31日 文責 校長 吉永博美

全力を出し切った運動会！ 一回り成長した子どもたち

保護者の皆様の応援、ご協力に感謝申し上げます。

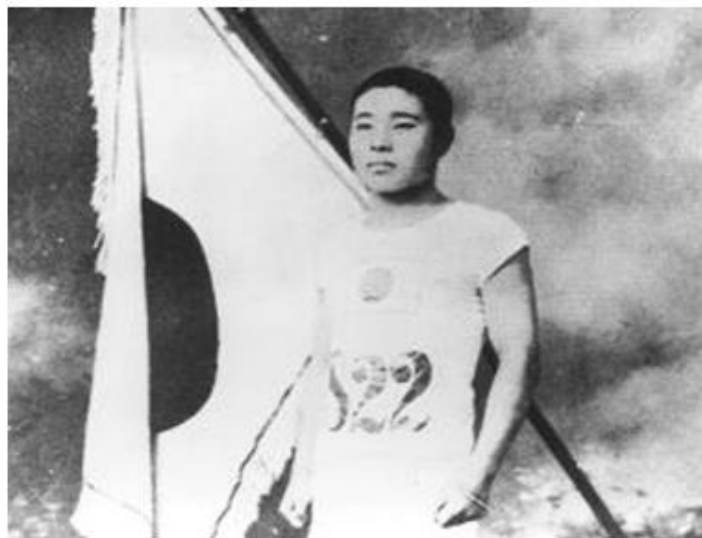


青空のもと、不知火っ子たちが躍動する姿を見せてくれました。子どもたちは、短い練習期間でしたが、たくましく成長してくれました。1・2年生の元気はつらつとしたくまモン体操、3・4年生の力強く気合の入ったよさこいソーラン、5・6年生は、組体操で、たくまさと集団行動の美しさを見せてくれました。徒競走やリレーその他の競技でも子どもたちの一生懸命さが伝わってきました。この経験をステップにますます成長してほしいと思います。保護者の皆様には、前日の準備や当日の応援、後片付けと大変お世話になりました。特に役員の方々には、競技をゆっくり観覧する間もなく、駐車場の整理や会場内の見回り等、児童が力を発揮できるような環境づくりのために動いていただき、本当にありがとうございました。

さて、運動会直後の30日に全校集会を開きました。全校集会では、運動会にちなんで日本人初のオリンピック選手となった熊本県出身の金栗四三さんについて話しました。金栗さんは、春富村(現玉名郡和水町)生まれで、1912(明治45)年、第5回オリンピック(スウェーデン・ストックホルム大会)に20歳のときに出場しました。20日間の船旅のあと迎えた初めてのオリンピックは、気温40℃の過酷なレースでした。金栗さんは途中で意識を失い、近くの農家で看病され、翌朝やっと気がついたそうです。レース中に亡くなった選手もいたそうです。金栗さんは、この惨敗で挫折することなく、その後2度もオリンピックに出場し、現役を引退した後は、どうしたら世界で勝てるようになるのかと研究し、選手の強化指導に尽力しました。自身で考案したマラソン用の足袋は金栗足袋と呼ばれ、マラソンシューズのはじまりとなりました。また、箱根駅伝を発案するなど日本マラソン界の父として仰がれるようになりました。座右の銘は「体力 気力 努力」です。金栗四三さんは、道徳の教材にも取り上げられています。子どもたちには、金栗さんの負けない心、折れない心、そして「体力 気力 努力」の大切さを学んで欲しいと思います。

<金栗四三の座右の銘>

体力
気力
努力



金栗四三
日本人初のオリンピック選手
かなぐりしぞう

1912年 第5回オリンピック(スウェーデン・ストックホルム大会)

<お知らせ> 南側校舎の改修工事が始まります

昨年の地震で大きな被害を受けた南側校舎の復旧改修工事がもうすぐ始まります。工事が終了次第、元の校舎にもどりますので、プレハブ校舎は撤去になります。秋には引越できると思います。その後、校舎新築に向けての準備が始まります。建設場所については、6月中旬に決定されると思います

※学校ホームページには子どもたちの様子等を随時掲載しています。どうぞご覧ください。